

令和7年度 広島市 英語教育改善プラン

目標

小中接続を見据えた言語活動が設定された指導を行い、自分の考えや気持ちを伝え合うことができる児童の育成を目指す。

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む) (専科教員含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

＜広島県児童生徒学習意識等調査より＞

①「英語でやり取りや発表をする時は、自分の考えや気持ちなどを伝えていきます。」の設問で肯定的な回答が、前年度より増加した。(R5:69.4%⇒R6:72.2%)

＜広島県児童生徒学習意識等調査より＞

①「英語の授業では、言語活動を行う際に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況を設定した」の設問で肯定的な回答をする割合が、前年より下回った。(R5:100%⇒R6:98.6%)

＜令和5年度英語教育実施状況調査より＞

②言語活動を通じた指導を行う際、領域によって、偏りがある。

	聞	読	話(や)	話(発)	書
5年	2.5	1.3	3.1	1.9	1.2
6年	2.4	1.3	2.7	2.1	1.5

＜英語専科指導教員研修のアンケートより＞

③外国語教育における小中連携の取組に学校間に差が見られる。

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①英語専科指導教員研修において、中間指導を取り入れた授業動画をもとに協議をしたり、英語教育研究校の実践を紹介したりしたことにより、自己の授業を振り返り、研修で学んだことを実践した教員が増えたことにより、授業改善が進んだ。

①英語専科指導教員研修において、「言語活動」の指導と「練習」するための指導との違いについて理解を図ったことにより、言語活動を捉え直したことが要因として考えられる。

②「話すこと」「聞くこと」においては、言語活動を通じた指導が浸透してきているが、「書くこと」「読むこと」においては、これまで研修や公開授業の機会がなかったため、指導法に不安を感じる教員がいるため、研修の中身を充実する必要がある。

③小中学校において相互授業参観等の実施が学校間でばらつきがあり、学びの連続性を意識した指導法の理解が中学校区において不十分である。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②③ 【英語専科指導教員研修】

- 英語専科指導教員に対し、「言語活動」を通して指導する必要性や具体例等を引き続き周知するとともに、小中連携を見据えた言語活動の授業づくりについて、研修を行う。
- 授業づくりのアイデアや困り感等について、交流する時間を確保することで、英語専科指導教員の横のつながりを深める。
- 「言語活動」の充実に向けた授業づくりや小中連携を見据えた指導が実施されているか、英語専科指導教員対象の質問調査から検証する。

(主な研修内容予定)

- ・小中接続を見据えた「書くこと」の指導と評価について
- ・「話すこと」と「書くこと」の統合的な指導についての実践交流

①①②③ 【英語教育実践研究校】

- 研究校ごとに研究テーマを設定し、実践的な指導法の取組や成果を、研修や研究会で紹介する。
- パフォーマンステストや言語活動に関する児童質問調査から実態把握し、次年度の研修内容を検討する。



⑤ 【広島市小学校(中学校)教育研究会(外国語科部会)との連携】

- 小・中の研究会において、本市の英語教育の課題を共有するとともに、各校種で実施されている指導内容や実践を紹介する。

【小学校英語専科指導教員に係る加配定数の活用】

- 令和6年度、本市においては、小学校英語専科指導教員90名(小学校教諭(本務):5名、常勤:29名、非常勤:54名、中学校教諭(本務):2名)を複数校兼務させ、全小学校(140校)に加配定数として配置している。
- また、一定の英語力を有する新規採用者確保のため、教員採用試験の筆記試験において、加点制度を設けている。

令和7年度 広島市 英語教育改善プラン

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

○「CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合 (R6 : 56.7% ⇒ R7 : 60%)

目標

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①言語活動の充実

R6全国学力・学習状況調査の質問調査の結果から、「英語を聞いて概要や要点を捉える活動が行われている」(R5:79.2%⇒R6:81.7%)と「英語を読んで概要や要点を捉える活動が行われていた」(R5:80.8%⇒R6:84.3%)について改善が見られる。

②話すことの指導

R6英語教育実施状況調査によると、授業において、50%以上の時間、1人1台端末等を用いた発表や話すことにおけるやり取りについて指導した学校の割合が増加した。(R5:16.9%⇒R6:23.4%)

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力

R6英語教育実施状況調査によると、求められる英語力(CEFR A2 レベル相当以上)を有している、あるいは有すると思われる生徒の割合は、56.7% (昨年度比-0.6) であり、目標とする60%を下回った。

②R5全国学力・学習状況

・教科調査の結果言語の働きを理解し、適切に表現することに課題が見られた。(平均正答率25.2%/全国29.0%)
 ・「話すこと」調査の結果から、対話を発展継続させるために、関連する質問をすることに課題が見られた。(平均正答率7.7%/全国13.4%)

2. 要因分析

①・②英語教育実践研究校での取組の成果を公開研究会等で普及したり、各種研修や要請訪問等を通して、学習指導要領の趣旨に基づいた指導助言したりするなどした成果と捉えている。

また、本市教育センターと連携し、英語指導助手(ALT)を効果的に活用した実践的指導力を高めるための研修により授業改善が進んでいると考えられる。

①母集団による誤差の範囲ではあるが、昨年度から割合が減少し、目標を下回った。要因として、言語活動が充実してきている一方で、生徒の英語の基礎学力の定着に課題があると考えられる。個に応じたきめ細やかな指導を行うために、達成状況の把握やフィードバックの方法について改善が必要である。

②全国学力・学習状況調査の結果について、場面等における言語の働きに係る指導が不十分であることが要因であると考えられる。また、「話すこと」調査の結果について、内容に関する質問を行う活動及び指導を行っていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②①②【学力向上推進事業】

○英語教育実践研究校における「話すこと」及び「書くこと」に関する指導、特に主体的に学習に取り組む態度の評価の更なる充実に向けて、引き続き、中学校区における実践研究を推進し、その成果を全ての中学校に普及する。

英語教育実践研究校	広島市立早稲田中学校区
	広島市立瀬野川中学校区
	広島市立安西中学校区

○学力向上重点指定校における基礎学力の定着に効果的な個に応じたきめ細やかな指導法に係る実践研究を推進し、その成果を全ての中学校に普及する。

学力重点指定校	広島市立清和中学校
---------	-----------



①②【英語指導助手(ALT)活用研修】

○本市教育センターと連携し、英語指導助手(ALT)を効果的に活用した教師の実践的指導力を高めるとともに、言語活動を取り入れた授業づくりへの理解を深めるための研修を行う。

②②【教員の自主研修で活用できる資料の作成・提示】

○個に応じたきめ細やかな指導を行うため、個別最適な授業モデルを作成し、英語担当教員に周知する。
 ○課題のある学校を訪問し、授業視察などを行い、「話すこと」及び「書くこと」に係る言語活動を通じた指導や評価の在り方について指導助言を行う。
 ○学習者用デジタル教科書の活用や、対話やプレゼンテーションの録音・録画など、ICT機器を活用した言語活動について、好事例を収集し、英語担当教員に周知する。

令和7年度 広島市 英語教育改善プラン

自分の言葉で世界に平和を語れるなど、グローバル化に対応した人材の育成

目標

- 「CEFR A2 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合 (R6: 67.9% ⇒ R7: 70.0%)
- 「CEFR B1 レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒」の割合 (R6: 34.9% ⇒ R7: 35.0%)

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

①言語活動の割合

授業における、生徒の英語による言語活動（授業時間の50%以上）について高い割合が維持されている。
(全国:56.6% R6:82.9%)

②パフォーマンスの実施状況

スピーキングテストとライティングテストの両方の実施について全国平均を上回っている。
(全国:49.7% R6 : 51.4%)

③生徒の英語力

- ・ CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合が増加した。
(R5:30.2%⇒R6:34.9%)
- ・ CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合微増した。
(R5:67.8%⇒R6:67.9%)

①ICT機器の活用

遠隔地の人物と英語で交流する等の活動を実施した学校の割合が依然として低い数値である。
(R5:14.3%⇒R6:14.3%)

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

2. 要因分析

①言語活動の割合

英語教育研究における成果発表や英語指導助手（ALT）の活用研修を実施し、言語活動についての理解を深める機会とした。

②パフォーマンスの実施状況

英語教育研究校における成果発表や英語指導助手（ALT）の活用研修を実施し、パフォーマンスの実施について周知するとともに、その指導と評価の一体化について指導した。

③生徒の英語力

CEFRを指標とした評価について、教員の理解が深まり、CEFR B1レベル相当の英語によるコミュニケーションを図る資質・能力が正確に測定できるようになった。

①ICT機器の活用

端末や通信環境の整備は進んでいるものの、遠隔地の人物と学校をつなぐコーディネーターのような役割を持った組織や制度が整備されていない。

3. 目標を達成するための施策・事業

【継続】

①②英語指導助手（ALT）の全校配置

英語指導助手（ALT）を各市立高等学校・中等教育学校へ配置し、効果的な活用を引き続き行う。特に、令和7年度は授業外での活用を促進する。また、ALTを活用した授業づくり研修を実施する。

①②英語教育研究校による実践研究

ALTの複数配置、授業外でのALT活用、平和ガイドボランティア、英語多読、海外修学旅行、定期的なアンケートやインタビューテストを引き続き行う。



③eラーニングの活用

広島市立大学との連携による、コンピュータを活用した英語学習システムの提供を引き続き行う。

③留学支援

- ・広島市高校生短期留学プログラム（ホノルル）を実施する。

③英語を使う場の創出

より高い発信能力の育成に向けて、中学生を対象として実施してきたE-Camp Hiroshimaを、高校生にも対象を拡大して実施する。

【新規】

①ICT機器の活用

英語教育研究校において、オンライン英会話プログラムの実践研究を行い、その成果を他の市立高等学校へ普及させることについて検討する。

広島市教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	70.0%	67.8%	70.0%	67.9%	70.0%		70.0%		70.0%		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	40.0%	30.2%	32.5%	34.9%	35.0%		35.0%		35.0%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100.0%	97.1%	100.0%	82.9%	100.0%		100.0%		100.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100.0%	85.3%	100.0%	51.4%	100.0%		100.0%		100.0%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	80.0%	92.0%	92.0%	87.8%	92.0%		92.0%		92.0%			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100.0%	70.6%	72.5%	68.6%	72.5%		72.5%		72.5%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	60.0%	57.3%	60.0%	56.7	60.0%		60.0%		60.0%		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100.0%	75.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100.0%	99.5%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		公表(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
		達成状況の把握(%)	100.0%	100.0%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	60.0%	63.2%	60.0%	62	60.0%		60.0%		60.0%		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100.0%	75%	100.0%		100.0%		100.0%		100.0%			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100%	100%	100%		100%		100%		100%
		公表(%)	100%	98.6%	100%		100%		100%		100%
		達成状況の把握(%)	100%	99.3%	100%		100%		100%		100%